

## 広島県に所在する旧軍墓地に眠る欧州の軍人

海上自衛隊幹部学校 1等海佐 本名 龍児 (98幹候)

先人を慰霊、顕彰するための重要な施設である旧軍墓地が、全国各地で施設維持のための予算確保、直接的な遺族の高齢化による維持活動の限界、施設の老朽化などの様々な問題に直面しております。そのような厳しい環境下で、旧軍墓地を次代へと受け継いでいくための方策の一つとして、新たな存在意義を見出していく必要があるでしょう。

広島県内には、広島県広島市に陸軍墓地、呉市に海軍墓地が所在しますが、両施設においては、近傍に所在する自衛隊部隊の隊員や小中学生によるボランティア清掃活動などが行われており、その地に刻まれた歴史に向き合う場となるとともに奉仕活動の尊さを体感、学習する場として新たな意義が見出されつつあります。

また、これらの施設には、日本の軍人以外に欧州の軍人の墓碑も数柱あります。欧州の軍人が遠い日本の地で眠ることとなったその経緯を知るとは、近代日本と欧州諸国の関わりを知る端緒となることでしょう。

本稿においては、このような関心から、呉及び広島旧軍墓地に眠る欧州の軍人たちについて紹介します。

### 呉海軍墓地

呉海軍墓地は、明治23(1890)年に海軍軍人の戦没者、殉職者等の埋葬地として広島県呉市長迫町(旧和庄町)に設置されました。当初は旧海軍呉鎮守府により管理され、戦後の混乱期を過ぎ、戦没者の御霊を、呉海軍墓地にお迎えし、その功績を碑に託してご冥福をお祈りしたいとの願いから、生存者やご遺族の手によって、鎮魂の碑が相次いで建立されるようになりました。呉海軍墓地には現在、開設以来120年、各艦船、部隊毎の慰霊碑91基、個人碑157基、英国水兵の墓1基が建立されております。その意味から日本帝国海軍の歴史を刻んだ貴重な史跡遺産でもあります<sup>1</sup>。

現在では、近隣の小中学校や呉地方隊、呉在籍艦艇などからのボランティアによる清掃活動が盛んに行われることで、様々な課題に直面しつつもその歴史的意義が次代へと受け継がれつつあります。

例年、秋分の日に実施される呉海軍墓地慰霊祭において、林立する軍艦旗(旭日旗)の中に英国軍艦旗(White Ensign)が掛けられる墓があります。明治40(1907)年4月、宮島沖を航行中の英国中国艦隊所属軍艦アラクリティ(HMS Alacrity)から落水し、殉職した18歳の水兵 ジョージ・ティビンズ(George Tibbins)の墓です。



図1：ジョージ・ティビンズの墓碑

ティビンズは、15歳で英国海軍に入隊、入隊教育などの後、中国艦隊所属のアラクリティーに配属され、事故の前、同艦は、九州から瀬戸内海を通り、横浜に至るルートで日本歴訪中であり、加藤友三郎海軍次官からの招待により、呉において戦艦安芸の進水式に参列予定でした<sup>2</sup>。

明治40(1907)年4月13日、呉寄港前、宮島への入港作業中、おりからの大雨もあってか、ティビンズは、海面に落下、不幸なことに艦長、当直将校がこれに気付いて救助艇を降下させるのに15分を要し、救助することができませんでした。5月に入って彼の遺体は、対岸の五日市において発見され、海軍呉鎮守府がこれをひきとり、呉長迫の海軍墓地に埋葬し<sup>3</sup>、アラクリティー乗員は、横浜からの帰路に墓参、献花を行っています。

その後、戦争による対英感情の悪化により、ティビンズの墓は、投石などの被害を受けるようになり、見かねた呉鎮守府は檻を設置して、これを守りました。戦後は、朝鮮戦争に従事した2代目アラクリティー乗員や在京英国大使館武官らの献花が行われています。

### 比治山陸軍墓地（広島市）

広島市の平野部を一望できる比治山に所在する陸軍墓地は、明治5(1872)年、この地に設置され、その後、西南戦争以降の日本が関与した戦争により亡くなった軍人等が葬られています。近傍に所在する陸自部隊などからのボランティアによる清掃活動が盛んに行われることで、様々な課題に直面しつつもその歴史的意義が次代へと受け継がれつつあることは、呉海軍墓地と同様です。

この施設には、フランス及びドイツの軍人も葬られています。以降、その経緯を紹介します。

明治33(1900)年、中国(清)において生起した義和団の乱(北清事変)においては、自国民保護のため8か国(英露仏獨米墺伊日)が連合して出兵し、この際にフランス

傷病兵 120 名余りが広島に搬送され、市内の陸軍病院で治療されましたが、そのうちの 7 名は治療の甲斐なく客死し、比治山陸軍墓地のなかでも海を見下ろす一角に埋葬されました。

この乱での死傷者が増え始めた 6 月 27 日、当時、病院船を管理していた日本赤十字社から病院船「博愛丸」の派遣を陸海軍大臣に対して上申があり、両大臣は、陸海軍の監督下で運用することを了承しました。この際、日赤社長からは同時に諸外国の傷病者も受け入れることが上申されており、この件も含めて 6 月 29 日、山本権兵衛海軍大臣から海軍の現場指揮官である東郷平八郎常備艦隊司令長官に細部にわたる指示が出されました<sup>4</sup>。

東郷は現地で各国の指揮官に後送の要のある傷病者の有無を確認した結果、フランスから要望があり、博愛丸によって後送することとなりました。これに対し赤十字社は、患者を広島で救護したい旨、陸軍大臣に願い出て陸軍大臣は、広島予備病院の一部を赤十字社に貸与することとし、赤十字社の医療スタッフが、陸軍衛生部の指揮下で補助業務を遂行するという形態が確立しました<sup>5</sup>。

7 月に入って広島の陸軍病院において、傷病者の受け入れが開始されましたが、当時の記録によれば、陸軍の医師、衛生員、赤十字社職員、広島県及び市職員さらには民間の有志の人々は、日本軍の傷病者と分け隔てなく接し、病死者の葬儀にあっては、毎回約 300 名の会葬者が丁寧に弔い、在日のフランス武官や患者の引率将校から深い感謝の念が伝えられたとされています<sup>6</sup>。

令和 3(2021)年 11 月 19 日には、在京都フランス領事館総領事、国防武官らによる慰霊追悼式が実施され、7 名が埋葬された経緯等を示した説明板が設置されています。



図 2 : フランス軍人の墓碑

その後、日露戦争を経て、第一次世界大戦により生じたドイツ人捕虜の収容のため、各地に「ドイツ人俘虜収容所」が設けられました。大正 6 (1917) 年、大阪収容所が移転することになり、広島湾内にあった日露戦争時の陸軍検疫所建物に、ドイツ将兵 536 人、オ

ーストリア兵9人が収容されました。似島陸軍第二検疫所に連れてこられたドイツ人に、バウムクーヘンを日本で初めて焼いたカール・ユーハイム（Karl Juchheim ; 1886-1945）をはじめ、後の日本に深くかかわった捕虜たちもいました<sup>7</sup>。

似島収容所では、結果的に7名の病死者があり、そのうちの一人で海軍技官であったオットー・パペ(Otto Pape)の墓碑が比治山陸軍墓地に現存しています。

パペは、1885年、ドイツ北西部のニーダーザクセン州の代表的都市ブラウンシュヴァイク（独: Braunschweig, 英: Brunswick）に生まれ、1909年、蒸気機関関連の技師として青島に移住し、第一次世界大戦勃発と同時に海軍に現地で入隊しています。その後、捕虜として大阪収容所を経て似島収容所に移送され、1918年3月19日に病死し、比治山陸軍墓地に埋葬されました<sup>8</sup>。前述したフランス軍人の墓が海を見下ろす一角にあるのに対してパペの墓碑は、海を見下ろす位置ではありませんが、概ね祖国ドイツに向けて建てられています。

また、その墓碑には、原爆によると思われる傷跡が残されており、その後の両国が歩んだ歴史の重みを思い起こさせるものでもあります。



図3：オットー・パペの墓碑

令和3年暮れに筆者が訪問した日は、地元で維持管理に誠意を持ってあたられている方が国旗を新調された翌日であり、有志の方の誠意が純白の国旗によって欧州の軍人を含めた戦没者に示されているかのごとく翻っている姿が印象的でした。



図4：はためく国旗

以上、歴史を伝える遺産としての旧軍墓地の日本国内にとどまらない側面をこれらの施設に眠る欧州の軍人の墓碑を例に述べてきました。彼らは、明治から大正にかけての物故者ですが、現代とは、その時点からの点としてではなく、線として接続していることは、呉ティビンズの墓碑に設けられた檻、比治山パペの墓碑に残る原爆の爪痕から明らかです。

このように近代以降、日本がおかれた国際環境、欧州との関わりを連綿と伝えていく貴重な史料、史跡であるという点で、現下の欧州諸国が日本を含めたインド太平洋地域に関心を高めつつある情勢とも相俟って、広島県に所在する旧軍墓地は、貴重な歴史を伝える遺産としての性質を強く帯びつつあるといえるでしょう。

最期に私事となり恐縮ですが、筆者は、比治山陸軍墓地を通学した小中学校の学区内として放課後の遊び場として育ち、その景観のすばらしさを自負しています。同様の経験をしたと思われる旧海軍軍人には、駆逐艦夕立艦長として海戦史に残る活躍をした吉川潔少将がいました。このような背景もあり、会員の皆様におかれましては、ご来広の機会がありましたら、呉海軍墓地共々、ご訪問をお薦め致します。

(本稿に示す見解は、海上自衛隊幹部学校における研究の一環として執筆者個人が発表したものであり、防衛省・海上自衛隊の見解を表すものではありません。)

---

<sup>1</sup>「呉海軍墓地について」公益財団法人呉海軍墓地顕彰保存会事務局、2022年4月19日最終更新（執筆時）、  
<http://www.maroon.dti.ne.jp/kurekbk/enkaku/enkaku.html>.

<sup>2</sup> “Who Was George Tibbins?” *Parkways*, Vol.29 No.4 October- December 2014,  
<https://parkway.jimdofree.com/kure-before-the-war-s-end-%E7%B5%82%E6%88%A6%E5%89%8D%E3%81%AE%E5%91%89/who-was-george-tibbins-%E3%82%B8%E3%83%A7%E3%83%BC%E3%82%B8-%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%93%E3%83%B3%E3%82%BA%E3%81%A8%E3%81%AF/>.

---

<sup>3</sup> JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.B11092422300、29. 英国支那艦隊「アラクリチー」号乗組ノ水兵一名溺死シ屍体不明ノ処過日右発見シ特ニ呉海軍墓地へ埋葬ノコトニ定メタル旨海軍次官ヨリ通牒ノ件 (本文なし) (B-3-6-3-14\_007) (外務省外交史料館)

<sup>4</sup> JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.C08010016300、海軍 博愛丸太沽へ派遣の件 (防衛省防衛研究所)

<sup>5</sup> 原野昇「比治山に眠るフランス兵士」『広島大学マスターズ版』  
<https://hirodaimasters.web.fc2.com/sanpomichi/harano.pdf>.

<sup>6</sup> JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.C13120542100、第6 仏国傷病者に関する事 (防衛省防衛研究所)

<sup>7</sup> 「ドイツ人俘虜 (ふりよ) 収容所」広島市似島臨海少年自然の家、  
<http://www.cf.city.hiroshima.jp/rinkai/heiwa/heiwa008/german%20prisoners%20camp.html>.

<sup>8</sup> Herr Hans-Joachim Schmidt “Die Verteidiger von Tsingtau und ihre Gefangenschaft in Japan,”  
<http://www.tsingtau.info/>.

図1～4 : 筆者撮影